

故郷しまばら二十歳の集い



故郷しまばら二十歳の集い実行委員会の皆さん



新しい門出を自らの手で

「私たちを育んだ普賢岳の水とかけまして、燃える二十歳の希望と解く、その心はどちらも湧き続けるでしょう。普賢岳の水、二十歳の私たちのパワー、どちらも島原の源泉です」と加藤奈々副実行委員長によることばで「故郷しまばら二十歳の集い」が1月3日、島原文化会館で開式し、スーツや振袖姿の288人が参加しました。

当日は、昨年9月から式典の企画・準備を進めてきた実行委員会メンバーが式典進行を務めました。

式典では、実行委員長を務めた岸田広人さんが新成人を代表してあいさつし、この日を無事に迎えられる事への感謝の気持ちと、仲間との再会の喜びを語ったあと、島原市役所しまばら観光課に勤務し島原城築城400年記念のイベントで自身が担当した大きな約4メートル、重さ約1トンの大たいまつ作りを通して

て得た「思うだけでは何も変わらない。悩み考えながらも行動に移す事の大切さ」を紹介し、「小さくてもいいので、一歩ずつ踏み出して夢へと向かい、どんな苦悩や苦難も、ここにいる心強い仲間とともに乗り越えていきましょう」と呼びかけました。

続いて、実行委員の橋川幸輝さんが市民憲章を朗読したあと、稲田光桜さんが「私たちは、変化の激しい今の時代、多様性を認め合う今の社会を柔軟に生きる力、時代を超えて変わらない価値のあるものを見極める力を身につけることが重要です。今日の感動と未来への希望を胸に、新たな歩みを進めて行くことをここに誓います」と謝辞を述べました。

そして、船戸彩椰さんのピアノ伴奏で吉田妃那さんをはじめ新成人みんなが島原市民の歌を歌いあげると会場からは盛大な拍手が送られました。